

RM&FP NEWS LETTER

リスクマネジメント&ファイナンシャルプランニング

2011年 1月 第74号 By FP Compass



新年あけまして

おめでとうございます



昨年中は皆様のご高配に預かり誠にありがとうございました。

本年もよろしくお引き立てのほど、謹んでお願い申し上げます。

スタッフ一同、皆様の夢の実現にお役に立ちますよう、常に革新、創意工夫、知識の習得、情報の収集に限りない挑戦を続けます。

会社としては規模も小さく、至らない点もあるかと思いますが、改善を重ね、皆様のご契約をしっかりと守りながら、保険といえば「FPコンパス」と一番に言われますよう精進していきたいと存じます。

◇FPとしての活動報告

昨年10月30日に山形市の「山形テルサ」にてFPフォーラムin山形が開催されました。

前半はファイナンシャルプランナーの木村佳子さんの講演が行われました。

講演の演題は「FPが教える賢いお金運用のポイント」でした。

当初はマネーの基礎知識にかかわる内容から始まり、世界の金利状況、世界の経済状況の話に移り、特にオバマ政権下の経済スキーム、実体、成長率などを話されました。

次に、日本をはじめとする、世界の国々の人口ピラミッド構造の話になりました。

少子高齢化が進んだ日本では、人口減少に転じており、マーケットの大幅な成長は望めないことや、中国も早い段階で、日本のような少子高齢化が進むのではないのか、という予測をされていました。

ただ、人口が多いために成長拡大はしばらく続くものと見られています。

インドやブラジルなどは、ほぼピラミッド型になっており、若い世代の人口増が見込まれ、その結果、長期に渡って成長する予測をされていました。

このようなアプローチの仕方もあるものだと感心させられました。

その後、私たち登録相談員が、相談会の準備をし、2名のFPが複数ペアになり、10組以上の相談者を数カ所のブースに分散し、相談を承りました。

私たちの相談者は、40代の夫婦で来場され、住宅ローンの相談と、手持ち資金の資産運用と資産形成の相談をされました。

FP協会の相談会では、特定の金融会社の名前や商品名を提示することが禁止されていますので、考え方などの方向性をお話しさせていただきました。

アンケートの結果を拝見させていただいたところ、説明が的確でわかりやすく、理解できましたと良い評価を頂きました。

また、11月19日に、県立河北病院内で、職員様向きにマネーセミナーをさせていただきました。

県職員総務担当者様から、職員の退職金制度と年金制度の詳細な説明がなされた後に私の時間が約1時間ほどでしたが、マネーと保険の講話を行いました。

最後には、職員の皆様より多くのご質問を受けまして、12月中には個別の相談をすることになりました。

参加された職員の方々全員が、お金や保険の知識を得ることや、真剣に見直す必要だと言われていました。

1月には、置賜総合支庁講堂、山形県庁講堂、村山総合支庁北庁舎講堂の3ヶ所にて退職直前の県職員様に対し「退職準備セミナー：退職後の生活・家庭経済設計について」を講演する予定となっています。

私もどのような反応があるか楽しみです。

◇円高時の資産運用

現在、市場では「円高」と「金融緩和」がいつまで続くのか注目されています。

去年は円相場が一時最高値に迫る一方、円金利はゼロ%近くまで下がっており、新興国などの高利回りの外貨商品を運用対象に組み入れている人が多くなっています。

主要通貨の総合的な値動きを示す実効為替相場の昨年の動きをみますと、年初から円とオーストラリア(豪)ドルが上昇する一方、米ドルとユーロが売られました。

年末にかけて現在は米ドルが買い戻されていますが、今年の動きとして新興国・資源国通貨の上昇を予想する声が多いといわれています。

日米欧が金融緩和を続ける中、金融市場にあふれ出したマネーが高成長と高金利を期待できる新興国・資源国に流れるのはきわめて自然なことだと思います。

ただ、過熱する新興国通貨買いに警戒感も出ているのでチェックが必要となります。

新興国は金融市場も小さく、それほど多くない資金の流入でもバブルになりやすく、バブルの崩壊や一部の国による資本規制強化で急落するリスクもはらんでいます。

その中で注目株はやはり豪ドルとなります。

中国などの成長国の資源需要を背景に、資源価格の上昇が資源国通貨である豪ドル高を招くとの声が多く聞かれます。

オーストラリアは安定した先進国の一員でもあり、日本市場でも通貨の豪ドルは米ドル、ユーロに次いでなじみが深く、先進国の中では高利回りの通貨として人気があります。

◇進化する重粒子線がん治療

がんを切らずに治す重粒子線がん治療が今、脚光を浴びています。

世界で初めて重粒子線がん治療を始めた「放射線医学総合研究所(放医研)」は、より高い精度でがんを狙い撃ちできる次世代の重粒子線照射システムを開発しました。

治療期間の短縮化によるコスト低減に道を開くシステムで、今春に同研究所で稼働するほか、2013年春には佐賀県鳥栖市に「九州国際重粒子線がん治療センター」、翌14年に「神奈川県立がんセンター」にも導入予定となっています。

現在の照射システムでは炭素イオンをシンクロトロンという大型の円形加速器で加速し、シンクロトロンから出てくる炭素イオンのビームを太くした後、がんの形に合わせた鋳型を通してがんを攻撃します。

この場合、子宮がんなどの治療では何回かに分けて照射している間にがんが小さくなったり変形したりします。

このため、何度も鋳型を作り直す必要があり、多くの時間を費やす要因となりました。

次世代照射システムである「ペンシルビーム3次元スキャニング法」ではがんの大きさが変わっても臨機応変に対応できるオンデマンド治療を実現するために開発されました。

簡単にいえば、塗り絵のようにがんを塗りつぶす細いビームを照射していくものというイメージだそうです。

テレビのブラウン管の走査線を電子ビームでスキャンするように、炭素イオンビームを2ミリ間隔で動かし、がん組織に照射します。

肺がんなどのように呼吸に合わせて位置が変化するがんにも対応できるそうです。

新照射法では鋳型の作成が不要となり、また正常組織への影響も少なくなるので、より強い線量を照射できるようになります。

前立腺がんの場合、現在4週間の間に16回に分けて照射しているそうです。

前立腺の真ん中を通る尿道への影響を少なくするため、1回に照射する炭素イオンの線量を低く抑えなければなりません。

新しいスキャニング法では、1回で照射する線量を増やすことができるので、照射回数を8回～4回に減らすことができます。

16回照射から4回照射にする事ができれば、現在の4倍もの前立腺がん患者に対応する事が可能となります。

そのために、治療する患者の数が増えることになれば、治療コストの低減化につながっていきます。

ただし、重粒子線がん治療の対象にならないがんとして「胃がん」「大腸がん」といった消化官のがんのほか、「乳がん」「卵巣がん」「白血病」などがあります。

重粒子線治療は現在運用されている医療機関では「先進医療」の対象ともなっていないので、健康保険の対象部分は健康保険を利用できますが、先進医療の技術料は全額自己負担となります。

重粒子線治療は約300万円もの高額自己負担となりますので、その合理的対策法として医療保険等に先進医療特約(月100円程度の保険料で1千万円までの技術料をカバー)を付加する事が挙げられます。

◇相続税増税の方向性

政府税制調査会は「格差是正」の観点から資産家や高所得層により多くの税負担を求め、相続税の増税案を固めています。

今まで、相続税はバブル景気で地価が高騰した1980年代後半から、相続税負担を緩和しようと減税が繰り返されました。

それに加え、現在土地価格の低下により相続税を意識する人は少なく、次世代への資産移転が進まない状態になっています。

改正案では、土地や現金などの相続財産から基礎控除となる「5,000万円+1,000万円×法定相続人数」が「3,000万円+600万円×法定相続人数」と基礎控除が大幅に縮小されます。

これにより、相続税の課税対象者数は確実に激増しますので、早い段階で自分の財産状況をしっかり把握することが必要です。

また、最高税率の引き上げも見直され、従来6段階で最高50%であったものが、8段階で最高55%と引き上げられます。

相続税増税の代わりに、生前に次世代に財産を渡す「生前贈与」の優遇措置を拡大し、贈与税の優遇と、優遇措置対象も20歳以上の子どもに加え孫まで拡大となります。

◇保険無料相談会のご案内

生命保険・損害保険無料相談会を下記の通り開催しますので、ご希望の方は電話、EメールまたはFAXにてご予約してください。

日程：1月15日(土)・22日(土)・29日(土)
2月5日(土)・19日(土)・26日(土)

時間 * 10:00～ * 13:00～

* 15:00～ * 17:00～

各90分程度の相談時間となります。

場 所：FPコンパス店舗内

受 付：多田、鈴木まで

◇年末・年始休業のご案内

年末年始の休日が下記の通りとなっておりますので、よろしくお願い申し上げます。

平成22年12月30日(木)～

平成23年1月4日(火)まで

損害保険各社の「事故」発生時の連絡先

(すべて365日24時間対応しています)

あいおいニッセイ 0120-024-024

三井住友海上火災 0120-258-365

日本興亜損害保険 0120-258-110

セコム損害保険 0120-210-545

当社では留守番電話となり、1月5日(水)以降の対応とさせていただきます。

発行者 有限会社 FPコンパス

武田幸夫 藤井義容 大木隼人 西塚英樹 木村正照 阿部 信 工藤 進
大西忠兵衛 阿部 尊 高橋治子 佐藤豊彦 佐藤和一 深瀬幸子 多田恵子
土赤 妙 鈴木由美子

〒994-0063 山形県天童市東長岡2-1-34-103

TEL 023-658-3512 FAX 023-658-3513

E-mail postmaster@fpcompass.co.jp